



# こども支援アセスメント通信 vol.12



## こども支援アセスメント勉強会を開催しました！

前号でもお伝えしていたとおり、2月に勉強会を開催しました。  
オンライン開催でしたが、グループワークも取り入れ、アットホームな雰囲気で行うことができました。

**日時：**令和5年2月15日（水）10時～12時、15時～17時【WEB】  
**講師：**本郷 佳江 先生（Y's communications 代表）  
**テーマ：**応用行動分析シートの活用③「行動分析を基にした支援の実践と評価」  
**参加者：**午前14人（7事業所）、午後12人（7事業所）

## こどもの問題行動に困ったら…「記録」のススメ

3回の勉強会で学んだ内容について、事例からまとめてみました。



### 事例：Aさん

遊びの時間、うろうろしていたAさんは突然Bさんに体当たりし、驚いたBさんが叩き返し、けんかになった。止めに入った職員CにAさんは噛みつき、蹴とばす。職員Dが何とかなだめたが、黙れ！と暴言を吐き上靴を投げたので、別室に移動し落ち着くのを待った。

### まずはABC分析をしてみましょう(ある3日間の例です)。

A：事前	B：行動	C：事後
遊びの時間	Bさんに体当たり	叩き返され、けんか
職員Cに制止され	Cに噛みつき蹴とばす	職員Dになだめられた
職員Dになだめられ	黙れ！と上靴投げる	職員Dと別室へ
遊びの時間	Eさんのブロックを横取り	けんか
職員Cに制止され	Cに暴言を吐く	職員Cと他の遊びをする
遊びの時間	職員Fをグーで殴る	Fに注意される
Fに注意されたとき	近くにいたGさんをも殴る	職員Cと別室へ

対象児ひとり1枚シートを準備し、  
記入します。

**A：いつ？**  
出来事のきっかけを見逃さずに。

**B：具体的な行動やセリフを簡潔に。**

**C：まわりの反応や、行動の結果起こったこと。**

◎複数書き出すと、問題行動のきっかけや原因がより見えるかも？

- Aさんが暴れるのはいつも自由遊びの時間です！
- 職員に注意されて更に暴れているところも共通ですね。



◎一連の行動によってAさんが手に入れている「結果」は？

- けんかだけど、他の子に構ってもらっています…。
- しかもそのあと先生とふたりっきりになれている…。

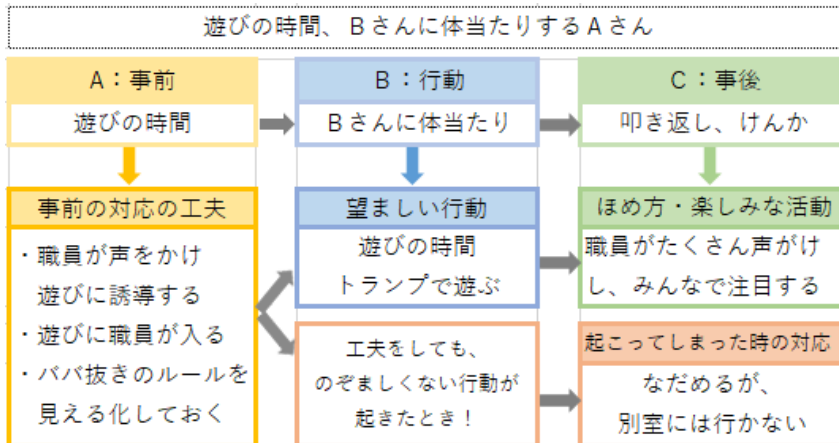
全然そんなつもりはなかったけれど、  
この結果はAさんにとっては御褒美＝強化子！？  
誤学習を招いている！

～～本郷先生からのアドバイス～～

職員研修で、実際の現場で困った事例をスタッフ全員と一緒に分析し、手立てをやってみたら、問題行動の改善が見られ、他の事例でもやってみよう！ というモチベーションに繋がった事業所さんがあります。

ストラテジーシートを使って最後まで取り組むのは時間がかかりますが、まずはトラブルが起きた時にスタッフそれぞれが、1日ひとつからメモする習慣をつけると、その問題が【いつ起きているか】の情報が集まりやすく、問題が起きる活動や時間帯の傾向が見えてきて、支援につながりやすいですよ。

その結果を基に、望ましい行動を考えます(一例です)。



A : B : C : を書き写したあと、

まずは「望ましい行動」について考えます。

「望ましい行動」に導くためのあらゆる手立てを考え、記載します。

望ましくない行動が起こってしまった時の対応も職員間で統一しましょう。

◎体当たりした原因について考えてみましょう。

- 何をしたいかわからないから、他の子や職員にちょっかいを出しているのかな。
- 友達を誘うときにどのようにコミュニケーションを取っていいかわからないのでは。
- 危害を加える気はなく、本人は友達の気を引きたいだけなのかも知れませんよね。

◎まずは職員に誘われて遊びに参加することを「望ましい行動」に設定しました。

いざ、実践です！

ウロウロしがちなAさんに職員が声をかけ、トランプで遊ぶよう誘うことには成功しました。しかし、Aさんはパパ抜きのルールを十分理解しておらず、たびたびトラブルに発展します。改めてルールを教える必要があることがわかりました。



ルールを教えるために、パパ抜きの課題分析をしてみます

パパ抜きの課題分析	
① 手札を広げ、見渡す	△ 手札の固定を補助する
② 手札の中からペアのカードを捨てる	△ ペアを入れる箱を用意する
③ じゃんけんで最初にカードを引く人を決める	○
④ カードを引く	○
⑤ 逆の人にカードを引いてもらう	○
⑥ ペアができたら捨てる	△ ペアを入れる箱を用意する
⑦ ④⑤⑥を時計回りに繰り返す	△ 方向、順番を見る化する
⑧ カードがなくなった人が【勝ち】	○
⑨ 最後にパパを持っていた人が【負け】	△ 勝負表などを作る。 次いつやるか予告する。

「課題分析」の手順

- ①一連の活動を、より細かい行動要素に分析します。
- ②各項目について、評価を記載します。  
できる：○ 手助けが必要：△  
できない・やらない：×
- ③△の項目について、必要な手立てを考え記載します。
- ④③の内容をひとつずつ支援します。

◎課題分析の目的は？

→一連の活動を細分化し、その活動の中でも何ができないのかを明確にすることによって、よりシンプルな課題を見つけ出し、焦点化した対応について検討することです。

◎課題と必要な支援内容は明確になりましたか？

→「ルールを教える」では何をするのか難しいですが、課題分析によって具体的な対応策が見えました！

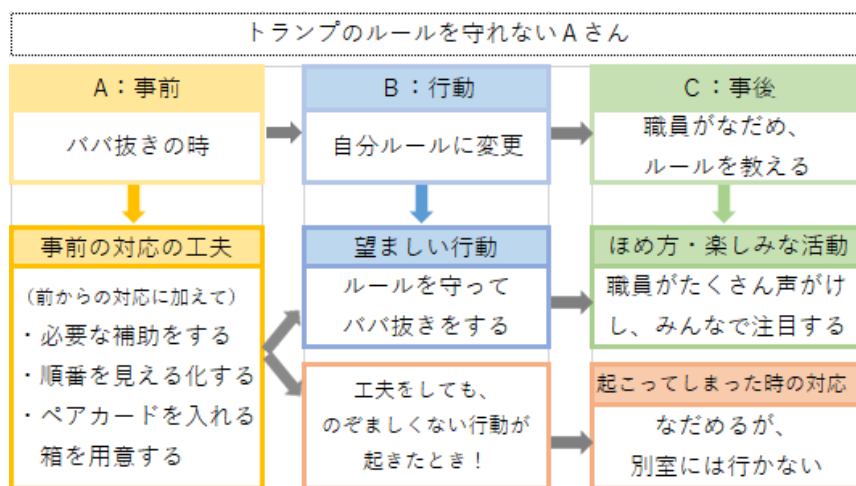
～～本郷先生に質問①～～

「△が複数あったときに、取り組む際の優先順位をどう考えればいいですか？」

優先順位は、保護者や本人のニーズ、就学を控えているなど、様々な状況に応じて変わってきます。最初から順番に教えている場合は項目の初めのほうから取り組む、最後から教える（バックワードチェイニング）場合は、項目の後半から取り組む等です。状況に応じて変わってくるので、リクエストがありましたら別の機会に詳しくお伝えします！



課題分析の結果から、事前対応を追加しました



望ましい行動を考えると、そして児へ働きかけをするときは、次のことに気を付けましょう。

- ①肯定形で表現すること  
「～しない」「～でない」は×
- ②具体的な表現であること  
「きちんと」「しっかり」等の曖昧な表現は×

～～本郷先生に質問②～～

「否定形や曖昧表現 NG はわかるけど、咄嗟に適切な言葉への変換が難しいです…」

言葉をかけるに至った経緯（A：事前）状況によって、かける言葉も当然変わってきます。

ここでは、「叩く」という場面を例にして考えてみます。

- ・「やめて」など拒否の言葉が言えず叩いてしまった場合
  - コミュニケーション（やめて／STOP）カードを用意する
  - 避難先（場所，担当の先生）を事前に説明しておく
- ・遊び時間相手をしてくれる人がいない，何をしたいかわからず，お友達を叩く場合
  - （叩く前に）こっちで先生とパズルしようか
  - 遊びを種類ごとにカゴに用意し，子どもが選べるように見える化する
- ・スペースが狭く遊んでいるときにぶつかったり，叩いてしまう場合
  - こっちのイスに座って遊ぼう／こっちのマットの上で遊ぼうか



そして本当は、出来事が起きる前に声がけしたり、システムを整える必要があります。

～～本郷先生に質問③～～

「事例検討を通して、こどもの望ましい行動を引き出した例について教えてください」



支援者とすれ違いざまに、グーで殴ってくる児童の例を御紹介します。

「痛いからやめて」と何度も言い続けているが改善されませんでした。事例検討によって

- ・児童のコミュニケーション（なんて声を掛けて良いかわからない）と、
- ・力加減が難しい のではないかとの分析をし、

事前の対応の工夫を考え、取り組むことで、何年も続いていた問題行動が数ヶ月で改善されました。複数の職員で検討し、問題行動の原因を推察できたことで改善された例と思われます。

～～全体を通して、本郷先生からのメッセージです！～～

支援者として求められることも増え、集団の中で個別対応を考えることは簡単ではないかもしれません。

だからこそ、「出来ること」「一つの場面をメモすること」からはじめてみませんか。

研修でもお伝えしましたが、ポイントは【A：事前】です。

問題行動は「いつ、何の時間や、活動の時の多いのか」を知ることが支援の一步に繋がります。

問題が起きてから「どう対応したらいいか」と考えるのは、非常に苦戦します。

一日一場面からでもよいので、記録を取ることをおススメしたいと思います！！



◎第3回勉強会の事前アンケートから

- ・忙しくて事例検討をする時間を作れない
- ・シートをどのような場面で使ってよいかわからない という声を頂きました。

そこに対する答えが、上の本郷先生からのメッセージに表されていると思います。まずはポケットの中のメモ帳に一言。記録時間にABCシートに書き写すことから始めてみると、きっと何かが見えるはずです。

◎第3回勉強会後のアンケートから

- ・「ことが起こってから対応すると結果として誤学習をしてしまう」ということばが印象に残った
  - ・（課題分析で）行動を細分化していくことで支援ポイントが見えることが実感できた
  - ・（課題分析で）「ルール/行動の細分化」を学べたことで、子供たちのできるところを探す方法が見つかった
- こどもの問題行動を減らし望ましい行動へ導く過程で、本人の出来ないことを適切に手助けしていく。なんとも難しいことではありますが、勉強会でそのヒントを得ていただけたなら、とても嬉しいです。

◎PDCA サイクルをまわしましょう！

実践してみて課題が解決に近づくことを実感したり、他の新たな課題に対応する必要が生じたりすることで、児の状況を改めてアセスメントし計画を立て直す。これを軸としてPDCAサイクルが回っていきます。

個別性に配慮した計画作成と実践をするために、「応用行動分析」「課題分析」の手法を御活用いただければ幸いです。

◎今年度の締めくくり

新型コロナの影響も受け、この通信の発行も今年度は2回となってしまいました。今号は拡大版とし、昨年度から3回シリーズで行った勉強会の内容をまとめ、御紹介しました。各回の内容を繋げるための一助となること、また勉強会に参加されていない事業所の皆様にも参考にしていただけることを願っています。

これまでの通信は当所ホームページに掲載されています。  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-hohuku/reha-reco-kodomo-assesment.html>  
（「仙台 リハレコ」で検索） QRコードはこちら→



[発行・問い合わせ先]  
宮城県仙台保健福祉事務所健康づくり支援班  
〒985-0003 宮城県塩竈市北浜4丁目8-15  
TEL/FAX : 022-363-5503 / 022-362-6161  
メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp